

験者は2025年度96人、24年度96人、23年度56人で、全てに必要な対応を行った。具体的には、学習障害や視覚障害がある人への問題用紙拡大、利き手に障害がある人への試験時間延長、自閉症や情緒障害などがある人への別室受験、ICT等支援機器の活用などの対応をした。

## 錦江湾横断道路 識者に工法聴取

自民・郷原拓男議員（鹿屋市・垂水市区） 県開発促進協議会で錦江湾横断道路の技術的な可能性調査が

初めて要望に盛り込まれた。その意義や、本年度の県の取り組みを示せ。

### 長島和広総合政策部長

県が2012年度までに実施した可能性調査から10年以上たち、再調査が必要なものもある。薩摩・大隅両半島を結び活火山に近接するという特殊性から技術的可能性を含めた調査の実施を要望した。本年度は新たな工法を含め海底トンネルなどの建設に精通する専門家にヒアリングし、国や鹿児島市、鹿屋市、垂水市との勉強会を開く。